

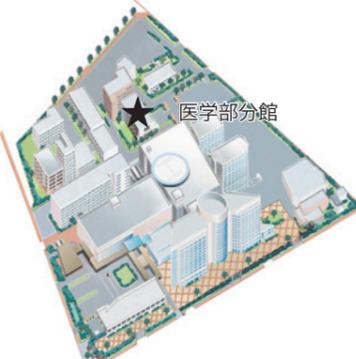


名古屋大学附属図書館概要

2011

- 1 文学図書室 2 教育発達科学図書室 3 法学図書室
- 4 経済学図書室 5 国際経済政策研究センター情報資料室
- 6 情報・言語合同図書室 7 理学図書室
- 13 機械・電子機械・航空図書室 14 電気・情報図書室
- 15 化学・生物系図書室 16 工学部中央図書室 17 土木系図書室
- 20 生命農学図書室 21 国際開発図書室 23 環境医学研究所図書室
- 24 地球水循環研究センター図書室
- 25 アイソトープ総合センター図書室 26 情報基盤センター図書室
- 27 総合保健体育科学センター図書室 28 高等教育研究センター
- 29 留学生センター 30 災害対策室
- 32 太陽地球環境研究所図書室・エコトピア科学研究所

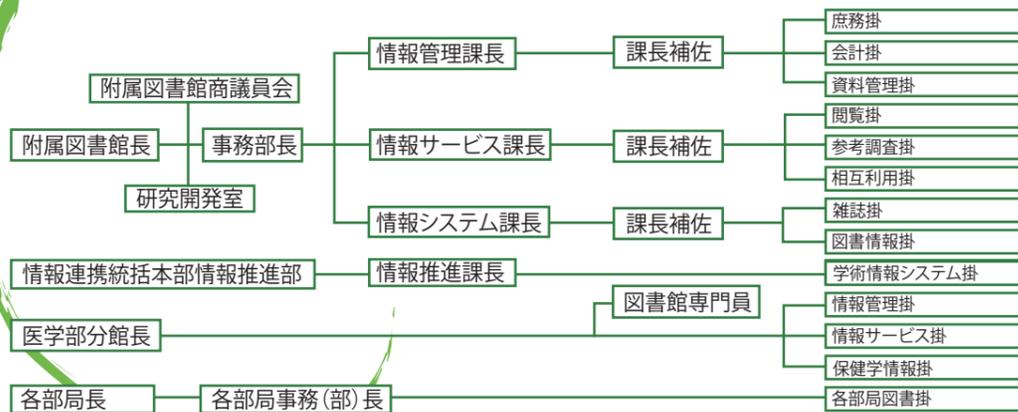
鶴舞キャンパス



大幸キャンパス



附属図書館の運営及び事務組織



名古屋大学附属図書館友の会

- 1. 目的 附属図書館における市民、学生および図書館職員などの交流を軸に、図書館関連情報の提供、図書館の社会連携・貢献活動の支援などを旨とする
- 2. 活動 「友の会通信」などの発行・配布、「ふみやむゆふべ」の開催と会員の交流、図書館が開催する各種行事への支援
- 3. 年会費 一般会員 2,000円 賛助会員 一口10,000円
- 4. 連絡先 友の会事務局 TEL: 052-789-3666 E-mail: tomo@nul.nagoya-u.ac.jp
ホームページ <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tomo/index.html>

名古屋大学附属図書館概要2011

2011年11月
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
TEL 052-789-3667 (代表)
FAX 052-789-3693
tos-syomu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学附属図書館のミッション

1. 附属図書館は、「名古屋大学学術憲章」に基づく名古屋大学の教育研究活動が必要とする学術情報の利用提供を担う中心機関として機能し、その活動の支援を行う。
2. 急速に進む学術情報の電子化に対応する学術情報基盤としてハイブリッド図書館化を推進すると共に、名古屋大学の教育研究成果の発信機関として機能し、教育研究活動の支援を行う。
3. 高度に情報化された21世紀社会と緊密な交流を持ち、文化の継承と社会への貢献の役割を果たすため、広く自由に開かれた学術情報の利用提供を行う。
4. 学術情報の国際的な受信・発信を推進すると共に、その利用提供の中心的機関として機能し、広く世界の学術活動に奉仕する。

沿革

1939年 4月	名古屋帝国大学(医・理工2学部)創設 医学部構内(昭和区鶴舞町)に附属図書館開設、 各学部に図書分室設置	1960年 8月	文・理の2学部を除く各学部に図書掛設置
1942年 4月	理工学部が工学部と理学部に分離、両学部に 図書分室設置、東山キャンパスへ移転	1961年 4月	プラズマ研究所附置に伴い図書掛設置
1945年 3月 ~5月	空襲により図書館資料の一部焼失	1964年12月	東山キャンパスに古川図書館(中央図書館)開館
1946年 3月	環境医学研究所附置に伴い図書室設置	1966年 4月	農学部(図書室)東山地区へ移転
1947年10月	名古屋大学附属図書館に改称	1970年10月	附属図書館報『館燈』創刊
1948年 9月	文学部及び法経学部設置に伴い両学部に図書 分室設置	1973年 3月	鶴舞キャンパスに医学部分館設置
1948年10月	附属図書館が昭和区鶴舞町から中区南外堀町 へ移転	1981年 9月	新中央図書館開館
1950年 4月	法経学部の分離に伴い法学部図書室、経済学部 に図書分室設置	1994年10月	中央図書館増築工事竣工
1952年 4月	瑞穂分校及び豊川分校統合による教養部(瑞穂区 瑞穂町)設置に伴い図書分室設置	1989年 5月	プラズマ研究所(図書室)廃止
1952年 9月	農学部設置(安城市新田町)に伴い図書分室設置	2000年12月	中央図書館に展示室開設
		2001年 4月	附属図書館研究開発室設置
		2006年 2月	名古屋大学学術機関リポジトリNAGOYA Repository 公開
		2009年12月	中央図書館にラーニング・commons設置
		2010年 7月	理学部の全学科図書室を統合し理学図書室開室
		2010年 5月	中央図書館にコーヒーショップ開店
		2011年 6月	工学部中央図書室が一部学科図書室を統合しES総合 館に移転開室

数字で見る附属図書館(2010年度)

サービス対象者数 24,520人 (学部生 10,109人, 院生 6,527人, 教員 3,466人, 職員 4,418人)

蔵書数

	和書	洋書	合計	所蔵雑誌 種類数
中央図書館	653,094	524,472	1,177,566	17,941
医学部分館	103,990	114,048	218,038	5,430
部局図書室	862,618	853,814	1,716,432	25,427
合計	1,619,702	1,492,334	3,112,036	48,798

施設

	面積(m ²)	座席数
中央図書館	15,597	1,024
医学部分館	1,968	205
部局図書室	10,014	751

図書館サービス

	開館日数	入館者数	貸出冊数
中央図書館	355	853,777 (41,848)	135,889
医学部分館	277	66,740 (505)	5,272
部局図書室	143~278	352,534 (2,550)	77,851
合計	—	1,273,051 (44,903)	219,012

相互利用(中央館)

	受付件数		依頼件数	
	国内	海外	国内	海外
文献複写	6,566	26	594	160
現物貸借	1,191	9	776	55

参考質問件数(中央館) 3,342件

図書館経費

単位:千円

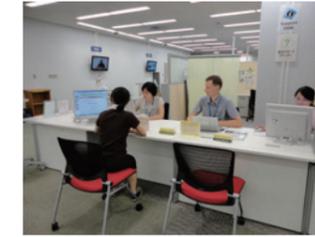
	中央図書館	医学部分館	部局図書室	合計
図書費	214,245	110,511	504,189	828,945
内EJ・DB相当分	130,237	2,575	213,260	346,072
運営費	178,053	14,689	67,741	260,483
合計	392,298	125,200	571,930	1,089,428

電子図書館サービス

電子ジャーナル提供数	32,349種
電子ジャーナルダウンロード件数	1,803,286件
OPACアクセス件数	1,363,331件
図書館HPアクセス件数	7,107,204件
NAGOYA Repository登録件数	11,587件
// ダウンロード件数	999,273件

ラーニング・commons

中央図書館2階のラーニング・commonsは、学生同士の議論や共同作業に対応した新しい学習の場として設置されました。また、図書館を有効に活用するための講習会や、レポートや論文作成のためのライティング・サポートなど、図書館と学内組織とが連携し、場所・資料・人的支援の三面から学習・教育支援を行っています。



おもなコレクション

高木家文書

高木家文書は美濃国の豪族で旧旗本高木家に伝わる「宝暦治水」等、木曾三川の治水、領内村方支配、財政、家政関係の文書群で、約10万点を所蔵。

「木曾三川流域大絵図」は高木家が河川管理に用いた宝暦治水(1754-55年)以前の流域環境を示す絵図。



木曾三川流域大絵図

伊藤圭介文庫

日本における近代植物学の祖といわれる伊藤圭介の稿本188冊を集めたもの。『錦窠植物図説』『錦窠魚譜』『錦窠蟲譜』などの図譜のほか、『採草叢書』などがある。



『錦窠植物図説』より



水田文庫の一部

水田文庫

アダム・スミスの世界的研究者である水田洋名古屋大学名誉教授の旧蔵書で、近代西欧社会思想史関係の原典約2,000点を含む約7,000冊のコレクション。

学術情報のデジタル化・情報発信



附属図書館が所蔵する高木家文書、伊藤圭介文庫、和漢典籍の電子化により普段接することのできない貴重資料を公開するとともに、名古屋大学学術機関リポジトリ NAGOYA Repository を構築し、学術論文や学位論文など学内で生産された学術情報の発信を行っています。

研究開発室

2001年4月に設置された附属図書館研究開発室では、全学における教育研究支援機能の高度化を図るため、電子情報資源と伝統的紙媒体資料を統合したハイブリッドライブラリーの実現に向けた研究開発を行っています。

主な研究課題

- 貴重資料のデジタルアーカイビング
- 地域諸施設との連携と地域社会への貢献
- リテラシー教育の普及と高度化
- 研究学習情報資源の全国共有戦略

刊行物

- 附属図書館研究年報
- 附属図書館研究開発室年次報告

